

食べ物以外のものを食べようとします（異食）…

⇒危険なものは片づけ、空腹や手持ちぶさたな時間を減らしましょう

【 認知症の人の状態 】

とよさと病院 認知症疾患医療センター

“異食”の原因は、**判断力の低下**や見当識障害である**記憶障害**などがあげられます。食事をして満足感が得られない、嗅覚や味覚が鈍って食べ物かどうか分からない、一人で退屈なため、近くにあるものを口に入れてしまう、という人もいます。

異食を見つけると、家族は驚いて大きな声を出して止め、叱りがちですが、それは**逆効果**です。驚いて喉に詰まらせてしまうことがあります。**代わりの食べ物を渡して取り替えてもらう**など、なるべく自分で口から出すよう促しましょう。

【 対応方法 】

- ①口に入れると命に関わるような危険なもの（洗剤、漂白剤、タバコ、殺虫剤、薬品、電池など）や、普段飲んでいる薬は、認知症の人の目が届かないところに置くか、**戸棚に入れて鍵**をかけましょう。※普段飲んでいる薬も、パッケージごと口に入れたり、あるだけ全部飲んでしまうなどの危険性があります
- ②タバコは吐かせるけれど、漂白剤は吐かせないなど、ものによって**対処法**が異なるので、日頃から本などで確認しておきましょう。危険なものを口に入れてしまったら、適切な応急処置を行い、救急車を呼びましょう。
- ③お腹が空いて食べるものを探しているようなら、食事が足りているかどうか見直しましょう。食事の量が十分なら、**低カロリーのおやつ**などを用意し、少しずつ食べるようにしましょう。
- ④手持ち無沙汰でなんとなく口に入れてしまうときは、話し相手になる、散歩をするなど、**食べることから関心をそら**しましょう。

参考文献：杉山孝博, 認知症の9大法則50症状と対応策, 法研, 2013, P78-79

認知症の人と家族の会, 認知症になった家族との暮らしかた, ナツメ社, 2018, P110-113

吉田勝明, 認知症は接し方で100%変わる!, IDP出版, 2017, P132-133

2022.6作成

細かいものが多いキッチンや、しまう収納を心がけ、ものがあまり表に出ていない状態を保つようにしましょう。（とがったもの、調味料等）何も置かない殺風景な部屋にするのではなく、手が届かない位置に飾りましょう。

